

OPINION

青戸腎クリニック 久保 仁

特集●透析医療における情報技術の進歩・展開

Editorial

東京女子医科大学臨床工学科 峰島三千男

I. 血液透析装置・システムからのデータ活用

(1) 日本透析医学会通信共通プロトコルとこれから期待される通信方式

群馬バース大学保健科学部臨床工学科 芝本 隆

(2) 電子カルテと透析支援システムのリンク

清永会矢吹病院・臨床工学技士 江刺 志穂 他

II. モニタリング

(1) 循環血液量モニタの活用

自治医科大学附属さいたま医療センター臨床工学科 安藤 勝信

(2) 患者血流量モニタの活用

庭山医院 庭山 淳

(3) 透析量（透析液排液中溶質濃度）モニタの活用

新生会第一病院臨床工学科 森實 篤司

(4) 体液量モニタの活用

知邑舎メディカルサテライト岩倉・臨床工学技士 長尾 尋智 他

III. 災害時透析患者情報の管理

(1) 個人向け健康医療福祉履歴管理システム

京都大学大学院医学研究科腎臓内科学 戸田 尚宏 他

(2) 透析医療の災害時情報ネットワーク

仁真会白鷺病院 山川 智之

IV. 透析版ビッグデータの活用

(1) 日本透析医学会統計調査データの戦略的活用

清永会矢吹病院腎臓内科 政金 生人 他

(2) J-DOPPS

昭和大学医学部内科学講座腎臓内科学部門 長谷川 毅 他

(3) MBD-5D

東海大学医学部内科学系腎内分泌代謝内科 駒場 大峰 他

(4) Q コホート研究

九州大学大学院包括的腎不全治療学 鶴屋 和彦 他

〔特集コラム〕P-DOPPS

土田透析アクセスクリニック 土田 健司

〔連 載〕

● ケース・スタディ 山田 亜純 他

● ナラティブ・アプローチ 数藤 康代

● 症例による透析患者の画像診断 湯浅美紗子

(編集の都合により掲載内容が若干変更となることがあります)

臨牀透析 6 月号

〈2017 年 6 月 10 日発行〉

特集／創造する透析医療—新たな modality への期待と課題

1. 新たな modality

(1) わが国におけるオンライン HDF/HF は HD を凌駕するか？

川西 秀樹 (土谷総合病院)

(2) 合衆国における短時間頻回在宅血液透析の利点とその普及

小川 智也 (埼玉医科大学総合医療センター腎高血圧内科・人工腎臓部)

(3) 週 2 回の通常透析に週 1 回オーバーナイト透析を加えると何が変わるのか？

陣内 彦博 他 (学会 東京ネクスト内科・透析クリニック)

(4) PD+HD 併用療法の課題は何か？

本多 佑 他 (東京慈恵会医科大学腎臓・高血圧内科)

(5) 透析患者の運動リハビリはどこまで有効か？ 危険ではないのか？

三浦 美佐 他 (筑波技術大学保健科学部)

2. 新たな技術 (モニタリング)

(1) 血管アクセス穿刺に超音波モニタを必要とする患者は限定できるのか？

下池 英明 他 (高橋内科クリニック)

(2) レーザー血流計の利用によって透析低血圧は未然に回避できるか？

佐藤 隆 他 (偕行会名港共立クリニック)

(3) 連続溶質除去量モニタで明らかになること 山本健一郎 他 (川崎医療福祉大学医療技術学部臨床工学科)

3. 新たな技術 (透析装置)

(1) 「全自動透析装置」は患者に何をもたらすのか？

山家 敏彦 (神奈川工科大学工学部臨床工学科)

(2) 透析での事故防止策：透析事故を減らすには 塚本 達雄 (田附興風会医学研究所北野病院腎臓内科)

4. 透析療法の新たな視点

(1) 透析患者の HCV 感染は治癒することができる

菊地 勘 (豊済会下落合クリニック)

(2) さまざまな腎代替療法を受けての所感

古蘭 勉 (近畿大学生物理工学部医工学科)

(3) 日本の透析産業は海外で勝負できるのか？ 竹澤 真吾 他 (九州保健福祉大学保健科学部臨床工学科)